

[令和7年度財務諸表等]

1. 貸 借 対 照 表

令和 8 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現 金	528,994	556,234	△ 27,240
預 金	63,991,342	147,672,703	△ 83,681,361
未収金	0	996,596	△ 996,596
前払費用	7,920,627	7,805,292	115,335
流動資産合計	72,440,963	157,030,825	△ 84,589,862
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
預 金	58,662	58,710,561	△ 58,651,899
投資有価証券	918,418,218	859,766,319	58,651,899
差入保証金	81,523,120	81,523,120	0
基本財産合計	1,000,000,000	1,000,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	157,206,634	162,576,610	△ 5,369,976
学術出版・調査研究積立基金資産	246,201,855	246,201,855	0
特定資産合計	403,408,489	408,778,465	△ 5,369,976
(3) その他の固定資産			
設 備	59,000,417	66,379,475	△ 7,379,058
備 品	7,612,023	9,148,492	△ 1,536,469
リース資産	497,464	1,445,356	△ 947,892
ソフトウェア	2	184,324	△ 184,322
投資有価証券	96,206,757	0	96,206,757
その他の固定資産合計	163,316,663	77,157,647	86,159,016
固定資産合計	1,566,725,152	1,485,936,112	80,789,040
資産合計	1,639,166,115	1,642,966,937	△ 3,800,822

科 目	当年度	前年度	増減
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払費用	2,959,877	2,604,112	355,765
短期リース債務	374,880	947,892	△ 573,012
預り金	2,071,570	2,447,628	△ 376,058
仮受金	23,500	22,500	1,000
賞与引当金	13,449,250	12,534,001	915,249
流動負債合計	18,879,077	18,556,133	322,944
2. 固定負債			
長期リース債務	122,584	497,464	△ 374,880
資産除去債務	44,225,625	44,199,531	26,094
退職給付引当金	157,206,634	162,576,610	△ 5,369,976
固定負債合計	201,554,843	207,273,605	△ 5,718,762
負債合計	220,433,920	225,829,738	△ 5,395,818
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産	246,201,855	246,201,855	0
(うち特定資産への充当額)	(246,201,855)	(246,201,855)	(0)
2. 一般正味財産	1,172,530,340	1,170,935,344	1,594,996
(うち基本財産への充当額)	(1,000,000,000)	(1,000,000,000)	(0)
正味財産合計	1,418,732,195	1,417,137,199	1,594,996
負債及び正味財産合計	1,639,166,115	1,642,966,937	△ 3,800,822

2. 正味財産増減計算書

令和 7年 4月 1日～令和 8年 3月 31日

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
經常増減の部			
經常収益			
基本財産運用益	6,604,003	5,803,345	800,658
特定資産(退職給付引当資産) 運用益	1,203,496	56,463	1,147,033
受取会費	165,870,000	165,870,000	0
日本証券業協会	127,640,000	127,640,000	0
日本取引所グループ	21,170,000	21,170,000	0
投資信託協会	17,060,000	17,060,000	0
受取研究会等負担金	5,000,000	5,000,000	0
日本証券業協会	5,000,000	5,000,000	0
受取研究調査費	2,003,842	3,574,226	△ 1,570,384
日本証券業協会	1,241,501	2,577,630	△ 1,336,129
日本取引所グループ	762,341	996,596	△ 234,255
指定正味財産からの振替額	315,787,326	293,437,312	22,350,014
受取一般寄付金	200,000	200,000	0
刊行物収入	1,159,501	1,255,733	△ 96,232
複写料収入	46,180	60,140	△ 13,960
流動資産運用収入	230,878	74,789	156,089
講演会関係収入	300,000	360,000	△ 60,000
その他収入	140,790	166,457	△ 25,667
經常収益計	498,546,016	475,858,465	22,687,551

科 目	当年度	前年度	増 減
経常費用			
事業費	416,880,154	396,318,464	20,561,690
役員報酬	24,972,579	25,143,392	△ 170,813
給与手当	114,945,291	117,756,933	△ 2,811,642
退職給付費用(役員)	7,753,991	7,596,552	157,439
退職給付費用(職員)	12,804,675	10,854,665	1,950,010
福利厚生費	19,947,263	20,213,590	△ 266,327
賃借料	92,881,043	93,004,145	△ 123,102
諸謝金	17,596,644	17,568,390	28,254
原稿料	5,431,062	5,675,124	△ 244,062
図書費	15,544,354	13,191,382	2,352,972
情報提供整備費	7,409,409	6,620,737	788,672
情報調査費	16,948,015	2,934,735	14,013,280
印刷費	20,307,223	14,910,115	5,397,108
複写費	1,647,373	2,112,162	△ 464,789
学会その他会費	2,114,000	2,114,000	0
会議費	6,815,600	6,856,438	△ 40,838
旅費交通費	10,145,920	9,868,172	277,748
通信運搬費	5,595,317	5,754,745	△ 159,428
設備減価償却費	6,416,149	6,936,813	△ 520,664
備品減価償却費	2,311,418	2,119,358	192,060
リース資産減価償却費	814,176	814,176	0
ソフトウェア減価償却費	0	44,000	△ 44,000
事務機器関係費	3,000,840	3,019,877	△ 19,037
修繕費	0	142,010	△ 142,010
消耗品費	820,300	919,658	△ 99,358
賞与引当金繰入(役員)	2,996,000	2,996,000	0
賞与引当金繰入(職員)	17,431,523	16,729,689	701,834
雑費	229,989	421,606	△ 191,617
管理費	78,381,386	79,423,561	△1,042,175
役員報酬	12,437,668	12,419,668	18,000
給与手当	25,968,896	25,568,355	400,541
退職給付費用(役員)	3,171,960	3,174,690	△ 2,730
退職給付費用(職員)	2,356,179	2,863,351	△ 507,172
福利厚生費	5,738,884	5,755,118	△ 16,234
賃借料	12,923,958	13,010,588	△ 86,630
諸謝金	1,160,592	1,083,270	77,322
租税公課	493,700	534,250	△ 40,550
情報提供整備費	376,212	257,100	119,112
複写費	148,538	199,793	△ 51,255
学会その他会費	188,000	188,000	0
会議費	756,729	995,296	△ 238,567
旅費交通費	73,240	84,140	△ 10,900
通信運搬費	220,535	233,320	△ 12,785

科 目	当年度	前年度	増 減
設備減価償却費	962,909	1,188,461	△ 225,552
備品減価償却費	433,401	212,440	220,961
リース資産減価償却費	133,716	133,716	0
ソフトウェア減価償却費	184,322	201,080	△ 16,758
委託費	2,986,846	3,766,379	△ 779,533
事務機器関係費	1,005,688	720,687	285,001
消耗品費	556,138	639,321	△ 83,183
賞与引当金繰入(役員)	1,284,000	1,284,000	0
賞与引当金繰入(職員)	4,365,161	4,154,280	210,881
雑費	454,114	756,258	△ 302,144
経常費用計	495,261,540	475,742,025	19,519,515
評価損益等調整前当期経常増減額	3,284,476	116,440	3,168,036
投資有価証券評価損益等	△ 1,689,480	0	△ 1,689,480
評価損益等計	△ 1,689,480	0	△ 1,689,480
当期経常増減額	1,594,996	116,440	1,478,556
経常外増減の部			
備品除却損	0	84,730	△ 84,730
経常外費用計	0	84,730	△ 84,730
当期経常外増減額	0	△ 84,730	84,730
当期一般正味財産増減額	1,594,996	31,710	1,563,286
一般正味財産期首残高	1,170,935,344	1,170,903,634	31,710
一般正味財産期末残高	1,172,530,340	1,170,935,344	1,594,996
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
増加の部			
受取助成金等	313,787,326	291,437,312	22,350,014
受取助成金	310,260,000	289,330,000	20,930,000
資本市場振興財団	279,630,000	258,700,000	20,930,000
証券保管振替機構	1,000,000	1,000,000	0
日本証券金融	1,200,000	1,200,000	0
日本取引所グループ(大取)	27,530,000	27,530,000	0
金融先物取引業協会	300,000	300,000	0
日本投資顧問業協会	300,000	300,000	0
第二種金融商品取引業協会	300,000	300,000	0
指定正味財産運用益	3,527,326	2,107,312	1,420,014
受取特定寄付金	2,000,000	2,000,000	0
減少の部			
一般正味財産への振替額	315,787,326	293,437,312	22,350,014
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	246,201,855	246,201,855	0
指定正味財産期末残高	246,201,855	246,201,855	0
Ⅲ 正味財産期末残高	1,418,732,195	1,417,137,199	1,594,996

正味財産増減計算書内訳表

令和 7年 4月 1日～令和 8年 3月 31日

(単位:千円)

科 目	研究調査事業	講演会事業	図書館事業	共通	公益目的事業計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部							
經常増減の部							
經常収益							
基本財産運用益				6,604	6,604		6,604
特定資産(退職給付 引当資産)運用益				1,224	1,224	△20	1,203
受取会費				82,935	82,935	82,935	165,870
日本証券業協会				63,820	63,820	63,820	127,640
日本取引所グループ				10,585	10,585	10,585	21,170
投資信託協会				8,530	8,530	8,530	17,060
受取研究会等負担金				5,000	5,000		5,000
日本証券業協会				5,000	5,000		5,000
受取研究調査費				2,004	2,004		2,004
日本証券業協会				1,242	1,242		1,242
日本取引所グループ				762	762		762
指定正味財産からの振替額				315,787	315,787		315,787
受取一般寄付金				100	100	100	200
刊行物収入				1,160	1,160		1,160
複写料収入				46	46		46
流動資産運用収入						231	231
講演会関係収入				300	300		300
その他収入						141	141
經常収益計				415,160	415,160	83,386	498,546

- (注) 1. 特定資産(退職給付引当資産)運用益は法人会計に充当する。
 2. 受取会費は50%以上を公益事業、残余を法人会計に充当する。
 3. 流動資産運用収入は法人会計に充当する。
 4. 記載金額は、千円未満の端数を四捨五入して表示。

科 目	研究調査事業	講演会事業	図書館事業	共通	公益目的事業計	法人会計	合計
経常費用							
事業費	286,702	31,305	98,873		416,880		416,880
役員報酬	21,235	3,738			24,973		24,973
給与手当	79,201	7,600	28,144		114,945		114,945
退職給付費用	16,131	1,566	2,862		20,559		20,559
福利厚生費	15,654	1,115	3,178		19,947		19,947
賃借料	54,364		38,517		92,881		92,881
諸謝金	14,308	3,289			17,597		17,597
原稿料	5,028	403			5,431		5,431
図書費	889		14,656		15,544		15,544
情報調査費	16,948				16,948		16,948
印刷費	15,632	4,676			20,307		20,307
会議費	1,698	5,118			6,816		6,816
旅費交通費	10,136	10			10,146		10,146
通信運搬費	3,870	1,501	224		5,595		5,595
賞与引当金繰入	16,113	1,144	3,171		20,428		20,428
その他事業費	15,497	1,146	8,121		24,764		24,764
管理費						78,381	78,381
役員報酬						12,438	12,438
給与手当						25,969	25,969
賃借料						12,924	12,924
その他管理費						27,051	27,051
経常費用計	286,702	31,305	98,873		416,880	78,381	495,262
評価損益等調整前当期経常増減額	△286,702	△31,305	△98,873	415,160	△1,720	5,005	3,284
投資有価証券評価損益等				△1,689	△1,689		△1,689
評価損益等計				△1,689	△1,689		△1,689
当期経常増減額	△286,702	△31,305	△98,873	413,470	△3,410	5,005	1,595
経常外収益計							
経常外費用計							
当期経常外増減額							
当期一般正味財産増減額	△286,702	△31,305	△98,873	413,470	△3,410	5,005	1,595
一般正味財産期首残高				1,045,010	1,045,010	125,926	1,170,935
一般正味財産期末残高	△286,702	△31,305	△98,873	1,458,480	1,041,600	130,931	1,172,530
Ⅱ 指定正味財産増減の部							
増加の部							
受取助成金等				313,787	313,787		313,787
受取助成金				310,260	310,260		310,260
指定正味財産運用益				3,527	3,527		3,527
受取特定寄付金				2,000	2,000		2,000
減少の部							
一般正味財産への振替額				315,787	315,787		315,787
当期指定正味財産増減額							
指定正味財産期首残高				246,202	246,202		246,202
指定正味財産期末残高				246,202	246,202		246,202
Ⅲ 正味財産期末残高	△286,702	△31,305	△98,873	1,704,682	1,287,801	130,931	1,418,732

(注). 事業費は全額、公益目的事業に係る費用である。

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- ① 満期保有目的の債券・・・償却原価法によっている。
- ② その他の有価証券
時価のあるもの・・・期末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)によっている。
時価のないもの・・・移動平均法による原価法によっている。

(2) 固定資産の減価償却について

- ① 設備及び備品
定額法によっている。
- ② リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。
- ③ ソフトウェア
定額法によっている。なお、自社利用ソフトウェアについては、当研究所における利用可能期間(5年)に基づいている。

(3) 引当金の計上基準について

- ① 賞与引当金
役職員に対する賞与の支払いに備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。
- ② 退職給付引当金
役職員に対する退職金の支払いに備えるため、期末退職金の自己都合要支給額に相当する額を計上している。

(4) リース取引の処理方法

リース料総額300万円を超える所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

(5) 消費税の会計処理

税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
預金	58,710,561	4,641,962	63,293,861	58,662
投資有価証券	859,766,319	59,279,451	627,552	918,418,218
差入保証金	81,523,120	0	0	81,523,120
小 計	1,000,000,000	63,921,413	63,921,413	1,000,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	162,576,610	96,741,721	102,111,697	157,206,634
学術出版・調査研究積立基金	246,201,855	36,364,545	36,364,545	246,201,855
小 計	408,778,465	133,106,266	138,476,242	403,408,489
合 計	1,408,778,465	197,027,679	202,397,655	1,403,408,489

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
基本財産				
預金	58,662	0	58,662	0
投資有価証券	918,418,218	0	918,418,218	0
差入保証金	81,523,120	0	81,523,120	0
小 計	1,000,000,000	0	1,000,000,000	0
特定資産				
退職給付引当資産	157,206,634	0	0	157,206,634
学術出版・調査研 究積立基金	246,201,855	246,201,855	0	0
小 計	403,408,489	246,201,855	0	157,206,634
合 計	1,403,408,489	246,201,855	1,000,000,000	157,206,634

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
設 備	108,327,211	49,326,794	59,000,417
備 品	39,992,504	32,380,481	7,612,023
リース資産	4,739,460	4,241,996	497,464
ソフトウェア	1,137,400	1,137,398	2
合 計	154,196,575	87,086,669	67,109,906

(注)備品の減価償却累計額は、一括償却資産の償却額を含む。

5. 保証債務等の偶発債務

該当なし。

6. 満期保有目的の債券の帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	帳簿価額	時 価	評価損益
愛知県公債ほか計15銘柄	1,360,206,291	1,274,074,000	△ 86,132,291

7. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
受取助成金	資本市場振興財団	-	279,630,000	279,630,000	-	指定正味財産
〃	証券保管振替機構	-	1,000,000	1,000,000	-	〃
〃	日本証券金融	-	1,200,000	1,200,000	-	〃
〃	日本取引所グループ	-	27,530,000	27,530,000	-	〃
〃	金融先物取引業協会	-	300,000	300,000	-	〃
〃	投資顧問業協会	-	300,000	300,000	-	〃
〃	第二種金融商品取引業協会	-	300,000	300,000	-	〃
合 計		-	310,260,000	310,260,000	-	

8. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替	
受取助成金等の振替額	315,787,326
合 計	315,787,326

9. 関連当事者との取引の内容

該当なし。

10. 資産除去債務

(1) 資産除去債務の概要

事務室、図書館等について不動産賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了時に原状回復義務を有しているため、契約及び法令上の義務に関して資産除去債務を計上している。

(2) 資産除去債務の金額の算定方法

資産除去債務の見積りに当たり、使用見込期間は15年、割引率は0.059%を採用している。

(3) 資産除去債務の総額の増減

当期首残高	44,199,531 円
有形固定資産の取得に伴う増加額	0 円
時の経過による調整額	26,094 円
資産除去債務の履行による減少額	0 円
当期末残高	44,225,625 円

11. 重要な後発事象

該当なし。

3. 貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記に記載しているため、記載を省略する。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科 目	当期首残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	12,534,001	13,449,250	12,534,001	0	13,449,250
退職給付引当金	162,576,610	24,208,449	29,578,425	0	157,206,634

4. 財 産 目 録

令和 8年 3月 31日現在

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額 (円)
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金	手元保管	運転資金として	528,994
普通預金	みずほ銀行兜町支店	〃	45,035,580
〃	りそな銀行北浜支店	運転資金として	13,895,744
〃	東京証券信用組合	〃	17,603
通常貯金	ゆうちょ銀行(北浜)	〃	446,292
振替口座	ゆうちょ銀行(日本橋)	〃	4,596,123
前払費用			7,920,627
流動資産合計			72,440,963
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	みずほ銀行兜町支店	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業共用の財源として使用している	58,662
投資有価証券	社債、地方債、政府機関債	〃	918,418,218
差入保証金	太陽生命日本橋ビルほか	公益目的保有財産であり、研究室等に使用する借室の保証金である	81,523,120
基本財産合計			1,000,000,000
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	預金、社債	役職員の退職給付引当金見合の引当資産として管理している	157,206,634
学術出版・調査研究積立基金資産	社債	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業共用の財源として使用している	246,201,855
特定資産合計			403,408,489

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額 (円)
(3) その他の固定資産			
設 備	東京・大阪	公益目的事業及び法人管理運営に使用している	59,000,417
備 品	東京・大阪	〃	7,612,023
リース資産	東京	公益目的事業及び法人管理運営に使用している	497,464
ソフトウェア	東京	法人管理運営に使用している	2
投資有価証券	東京	公益目的事業及び法人管理運営に使用している	96,206,757
その他の固定資産合計			163,316,663
固定資産合計			1,566,725,152
資産合計			1,639,166,115
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払費用		賞与引当金に対応する事業主負担の社会保険料相当額。	2,959,877
短期リース債務		複写機リース料	374,880
預り金	源泉所得税	給与等に係る源泉所得税	2,071,570
仮受金			23,500
賞与引当金		役職員に対する賞与の翌期支払いに備えるための引当金である。	13,449,250
流動負債合計			18,879,077
2. 固定負債			
長期リース債務		複写機リース料	122,584
資産除去債務		原状回復義務履行に備えるための見積撤去・回復費用である。	44,225,625
退職給付引当金		役職員に対する退職金の支払いに備えるための引当金である	157,206,634
固定負債合計			201,554,843
負債合計			220,433,920
正味財産合計			1,418,732,195

独立監査人の監査報告書

令和8年5月13日

公益財団法人 日本証券経済研究所

理事長 森本 学 殿

み お ぎ 監 査 法 人

東京都千代田区

指 定 社 員

業務執行社員

公認会計士

渡邊健悟

＜財務諸表等監査＞

監査意見

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づき、公益財団法人日本証券経済研究所の令和7年4月1日から令和8年3月31日までの令和7年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドライン第5章第2節第1(2)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書並びに財産目録のうち意見の対象とされていない部分である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との

間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項

に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

＜財産目録に対する意見＞

財産目録に対する監査意見

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に基づき、公益財団法人日本証券経済研究所の令和 8 年 3 月 31 日現在の令和 7 年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査報告書

令和8年5月13日

公益財団法人 日本証券経済研究所

理事長 森本 学 殿

監事 小林 正浩 

監事 清水 教 

私たち監事は、令和7年4月1日から令和8年3月31日までの第66期事業年度における理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要なりん議書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、また、みおぎ監査法人から監査の実施状況及びその結果について報告を受け、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

（1）事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

（2）計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、当法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以 上